

- つる引き時にひざを守るひざ当て「らくだにい」に続き、**すいか生産者から受粉時の色つけ作業の改善について要望**が出された。
- 生産者に聞き取りしたところ、**約8割が現状の作業について不満**(つけにくい、見にくい)を持っていることが判明。
- (独)鳥取県産業技術センター、業者と連携し、つけやすい、見やすい色付け器具の開発に取り組み、平成27年の実用化(商品化)を目指している。

具体的な成果

■つけやすい・見やすい色付け器具の完成

●特徴

- 1.ワンタッチでつるにタグ(色つき薄紙)をつけることができる
- 2.軽量で手の平に収まる大きさ
- 3.指にかけておくことができるので、同時に他の作業もできる
- 4.目立つ色、柄で見やすい
- 5.タグは自然界で分解する素材



■効率化、省力化への展開

- 現方法のクレパスでの色付けより早い(1回当たり、平均0.6秒短縮:従来の73%)
- 見やすくなり、色付けが関係する作業(色ごとの玉数カウント、玉起こし時の色付け、収穫時の軸切り)の時間が10%短縮

■他作目での活用の可能性拡大

- ブドウの新梢誘引、トマト・キュウリなどつる性作目の誘引作業に利用可能であることが判明
- (*誘引専用のタグの開発は必要)

■農家の期待高まる

現地試験を行う中で、早期の商品化を望む声あり。誘引作業への応用も軽労化につながると期待されている。

普及員の活動

【平成20年～21年】

- すいか生産者の色付け作業の実態、問題点について調査
- 改良策を検討し、**(独)産業技術センターと器具の共同開発**に着手

【平成22年～24年】

- 「受粉日マーカ」として**特許出願**
- 業者と開発委託契約**を締結し、より実用的な器具及びタグに改良(平成22、24年度には普及所単独で事業化し、予算を確保)

【平成25年】

- 生産者による現地試験を実施し、器具及びタグの改良を重ね、実用器が完成
- 他の作目での現地試験を実施し、活用の可能性を検討
- 実用器を**「タグ取り付け具」として特許再出願**

普及員だからできたこと

1. 現地活動の中から**生産者の声を拾い上げ、課題化**した。また、開発にあたっては、常に生産者の意見を聞きながら、**現場にあった改良**を加えた。
2. 実用化に向けて専門家の(独)産業技術センターや業者と連携を図った。**生産現場の情報や生産者の声をものづくりの技術者に伝える**ことでより実用的なものに仕上がった。